

外陰、肛門周囲の皮膚病変：

診断： PCR

外用薬：

イミキモド（ベセルナ）Beselna(持田)、クリーム：5% 12.5mg(0.25g/包)

[薬価]ベセルナ：クリーム(¥1,168.5/5%/250mg/包)、1日1回週3回（隔日、連日不可）

治療期間4週塗布、4週休薬、病変消失まで、4週で1/3大、8週で消失することが多い。

最長16週間、就寝前に局所に薄く塗りクリームが見えなくなるまで塗り込み塗布し、6-10時間を目安位に起床後に朝シャワー時に塗布した薬剤を石鹸で洗い落とす。通常は、夜入浴洗い落とし時間を基準に、10時間前のお昼時に塗布剤使用。

塗布前に、液体窒素、電気メス等で、硬い腫瘤表層をそぎ落としておくと、薬液が染み込みやすくなる（コンビネーション加療）。

尿道、膣、肛門内の粘膜病変には使用を避ける。

作用機序は炎症細胞の toll 受容体を介した免疫賦活作用で、Th1/CD8 免疫亢進、1型インターフェロン作用による。免疫亢進による紅斑の副作用がある。

大きな病変、皮膚以外の病変：

外科的切除、焼灼術（80-90%三塩化酢酸または二塩化酢酸、硝酸銀含む）、塗布直後に組織蛋白質を化学凝固させ、疣贅を白変壊死させる。用法には注意が必要で、数分間作用させたあとに、水などで洗浄して中和させなければ潰瘍化することがある。周囲の一見正常ではあるが感染している表皮/上皮を含めて、感染基底層まで焼き切る。その後、中心鶏冠腫瘤を切除し、再度、焼き切る。腫瘤が大きい場合は切除を先行することもある。

液体窒素凍結治療：周囲の一見正常ではあるが感染している表皮/上皮を含めて、3-5回凍結・解凍反復、治療後、2-3時間で疼痛消失、その後、火傷の後の鈍痛、入浴時疼痛有り、鎮痛剤処方、

レーザー蒸散術、電気泳動法焼灼：周囲の一見正常ではあるが感染している表皮/上皮を含めて、感染基底層まで焼き切る潔さが大切、美容的表層のみの蒸散ではすぐに再燃する！

米国疾患予防管理センター（CDC）の治療ガイドラインでは、連日塗布用のイミキモド 3.75%クリーム、0.5%podofilox 溶液またはゲルの外用、sincatechins 15%軟膏が挙げられ、米国では一般薬として発売されているが、本邦では医薬品としては発売されていない。不適切処方：5-FU 軟膏外用、ブレオマイシン局注、フェノール液の塗布 これらの治療法は、尖圭コンジローマには適応外で、細胞毒性や催奇形性の問題があり、エビデンスとなる

論文がないので使用すべきではない.